

---

# 岐阜県立高山工業高等学校

学 校 長 藤田 正昭

学校住所 高山市千島町291番地 電話 0577-32-0418

---

1 会議の名称 平成29年度学校評議員による会議（第1回）

2 会議の構成 委 員 稲野千賀子（株）新生メディカル

内島 靖夫（株）飛驒印刷（代表取締役） 欠席

岡田 梅代（株）クリエイティブフーズ

小屋垣内浩之 小屋垣内農園（自営）・高山工業高等学校育友会会長

松村 忠典（株）和井田製作所（総務部長）

（委員名は五十音順）

学校側 藤田 正昭 校長

村田 和宏 教 頭（司会）

北原 和弘 事務長

岩島 義則 教務主任（記録）

上垣内 忠 生徒指導主事

門前 雅人 進路指導部長

室谷 伸治 工業部長

3 会議の目的 岐阜県立高山工業高等学校評議員会設置要綱に基づき、平成29年度の教育方針・重点及び学校課題を説明し、それについての幅広い意見・提言を受け本校教育の改善・充実に資するとともに、開かれた魅力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成29年7月4日（火） 13:30~14:50 高山工業高等学校（校長室）

委員4名と学校側7名が出席

5 会議の概要

（1）学校長挨拶

①学校評議員の委嘱

②教育指導の重点について

学習指導については主体的な学習態度を育成し、基礎的・基本的な知識・技術の習得、思考力、判断力、表現力の育成を図る授業研究、実践を推進している。生徒指導の重点は、四つの重点について引き続き取り組んでいる。進路指導の重点は、地域の産業を支える工業高校として地域への人材供給を課題としている。今年の卒業生は58.2%が飛驒地域に就職した。

③マニフェストについて

ホームページでも公開し、重点目標に従い活力ある教育活動を進めている。

## (2) 授業参観

大雨洪水警報が発令され、臨時休業としたため中止

## (3) 学校から課題と重点の説明

教 務 部：全ての生徒がわかる授業を実践するため、授業の規律、板書の方法、授業の構造化等を共通で図る取組としてユニバーサルデザインを取り入れた授業を推進している。今年で3年目となるので、発展的な力を付けるための取組にも力を入れている。授業アンケートからは生徒の授業に対する満足度は高く、外部の学力テストからも、学力のボトムアップの成果が確認できた。

生徒指導部：挨拶や身だしなみといった基本的な事項は良好であり、問題行動も少ない。しかし指示された事項以外について、自らの意思で行動できていない様子が見られる。本年度は、状況を判断し正しく行動できる自己指導力の育成を図りたい。また、生徒指導を組織で対応するため、いじめ等の問題事案が起きるきっかけを見つけ次第即座に指導し、その後も組織として継続的に対応、指導できる体制を整えたい。

進路指導部：キャリア教育を充実させるため、進路行事実施時期の適正化や、各種適性検査の有効活用のための進路学習ファイルを活用した成果や結果の蓄積をしている。また、卒業生の離職状況を本年度夏休み以降に調査する予定である。公務員希望者もより高い目標が狙えるよう、また、企業の採用試験の面接で行われるグループワークにも対応するため、外部講師によるセミナー等を積極的に活用する予定である。

工 業 部：4つの学科が「魅力ある高山工業高校づくり」として、3つの指定事業に取り組んでいる。「活力ある学校づくり」、「地域連携」、「知財教育」のそれぞれの事業において、地域の課題を主体的に解決する学習活動を進めている。また、入学希望者の増加につなげるため、本年度は取組の状況を効果的に広報する委員会を組織した。

## (4) 協議 「本校の取組についての感想や学校への提言」

意見1 挨拶や身だしなみもよく、学校の成果を書いた横断幕も効果的である。街中での自転車の駐輪の仕方が気になる場合があるので指導してほしい。

意見2 エアコンの導入についてはどうなったか。

学校側 飛騨地区、県下の工業高校等の導入状況、及び実際の稼働日数・時間数なども算出して調べ、育友会にも導入を検討いただいた。維持費や運用コストを考えると見送るのが妥当という結論になった。

意見3 定員割れは1学校の問題ではない。また、このことが学校の抱える様々な学力不足や規範意識の低下というような課題につながっていると考えられる。人口減少による生徒数減について学校で対応するには限界があり、県全体で抜本的に向き合う時期に来ている。

意見4 地域の活力が、工業や農業といった「手に職を持ち働く」ことから生まれるのであれば、地域としてそのような気運を盛り上げていくことが大切である。地域産業の活性化を支える後継者を育成するためにも、学校の活性化等の取組を様々な関係者がそれぞれの立場で積極的に広報していくことが大切である。

## 6 会議のまとめ

平成14年から19年にかけて第一次教育ビジョンによる統廃合で、県立の高等学校が74校から63校に減少した。第二次教育ビジョンは、統廃合は行わずに活性化策を検討している。

これから十数年で飛騨地域の人口は30%近く減少することが試算されている。人口減少については県も様々な施策を行っているので、高山工業高校もその一翼を担っていきたい。

学校評価アンケートにもご協力願ひ、本日のご意見とともに今後の学校運営に活かしていく。

第2回は、卒業作品展当日の1月27日（土）に開催を予定している。